

5. 酪農教育アンケートの分析と考察

では次に、保護者にご協力いただいた、酪農教育アンケートの結果について報告し、考察を加えることで、今回開発・実施した酪農体験プログラムの検証を行いたい。

○ ねらい

今回開発・実施した酪農体験プログラムにより、幼稚園児とその保護者について、牛乳や牧場に関するイメージ及び牛乳の飲用習慣や家庭での牛乳に関わる食行動にどのような効果を生み出すのかを探る。

○ 調査内容

大きく7つの領域で設問を設定した。

設問1 牛乳の好き嫌いとその理由

設問2 家庭での保護者の牛乳の飲用習慣

設問3 家庭での子どもの牛乳の飲用習慣

設問4 牛乳や牧場についての保護者のイメージ

設問5 牛乳についての保護者と子どものコミュニケーション

設問6 家庭での牛乳を使った料理

設問7 子どもの偏食

○ 実施時期

1回目アンケート 2013年11月初旬（酪農体験プログラム実施前）

2回目アンケート 2014年2月中旬（酪農体験プログラム終了後）

○ 対象人数

年中組（うさぎ組） 保護者 21名

年長組（きりん組） 保護者 12名

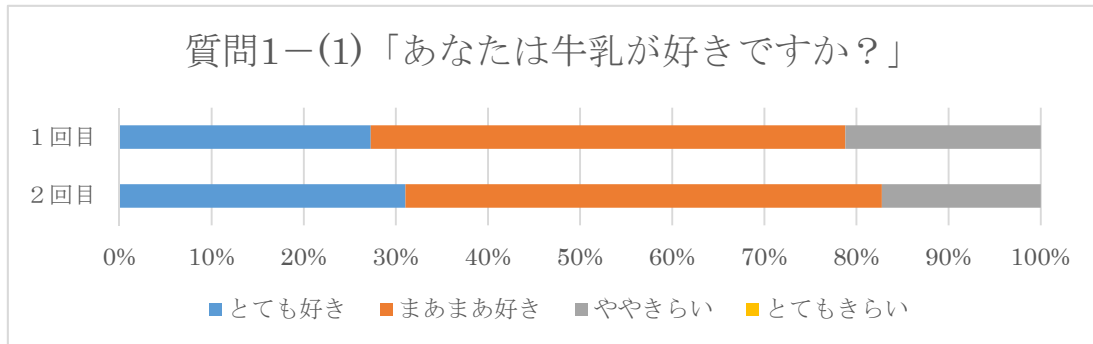
○ 分析方法

・それぞれの回のアンケートで、回答人数もしくは回答率を算出し、1回目と2回目を比較した。

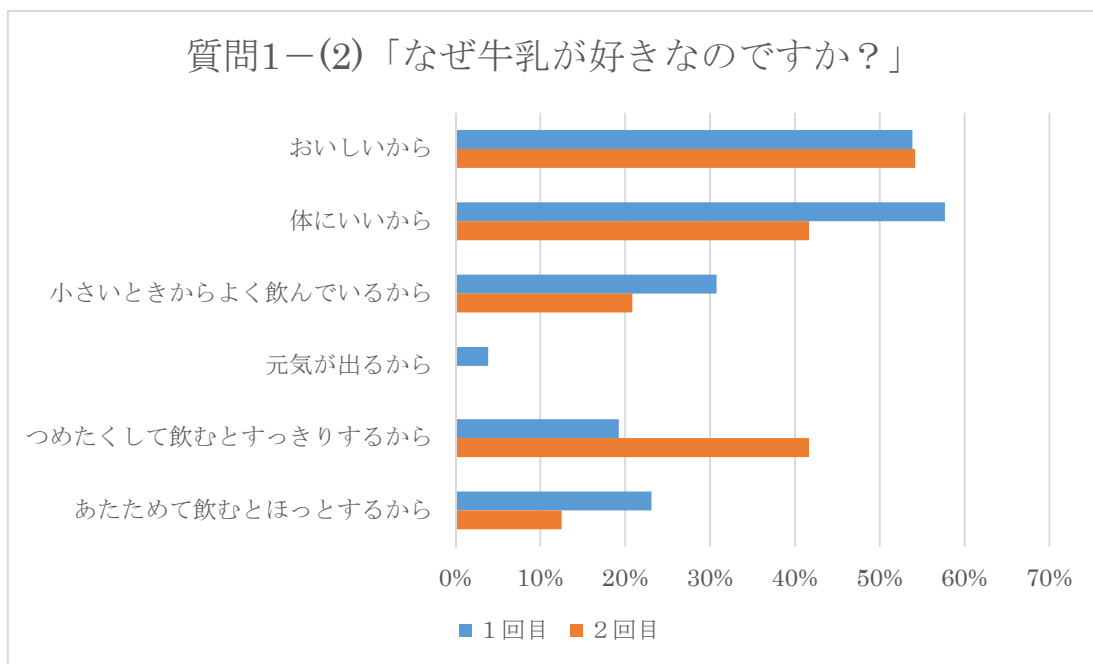
・各回で回答人数に違いがあるのは、アンケート提出人数が異なっているため。

・欠損値が多く分析の対象にしにくい設問項目は、分析対象から除外している。

1) 「質問1-(1)~(3)」についての分析と考察

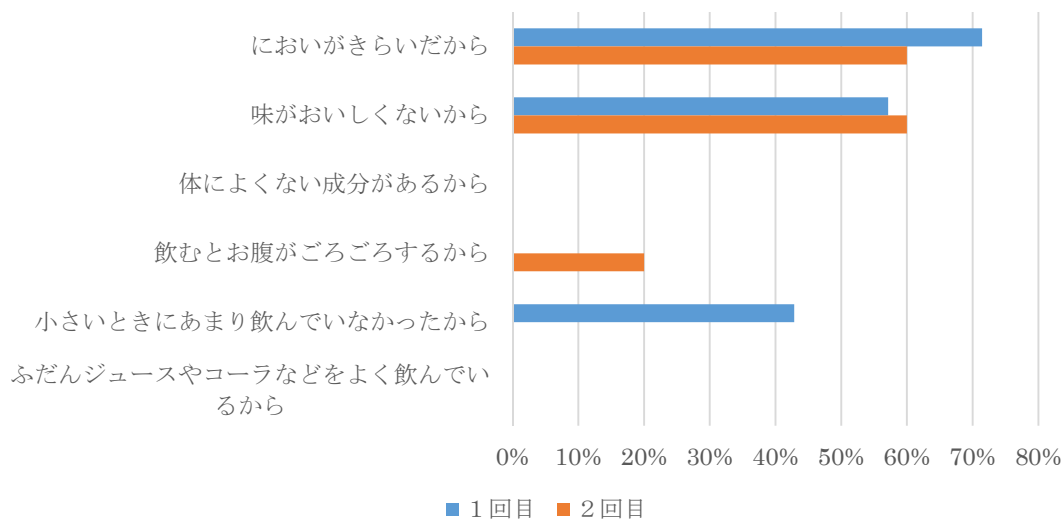


牛乳が「とても好き」、「まあまあ好き」という肯定的な意見が1回目、2回目ともに全体の約8割を占めていることがわかる。1回目に比べ2回目は「とても好き」の割合が上昇した。また、1回目、2回目ともに「とても嫌い」と答えた人はいなかった。



「とても好き」、「まあまあ好き」と回答した理由について、上記グラフから読み取れることとして、「おいしいから」、「体にいいから」という理由から牛乳が好きであるという人が多かった。さらに、「小さいときからよく飲んでいるから」という項目を回答した人の割合も多かった。1回目に比べ2回目は「つめたくして飲むとすっきりするから」という理由の割合が上昇した。

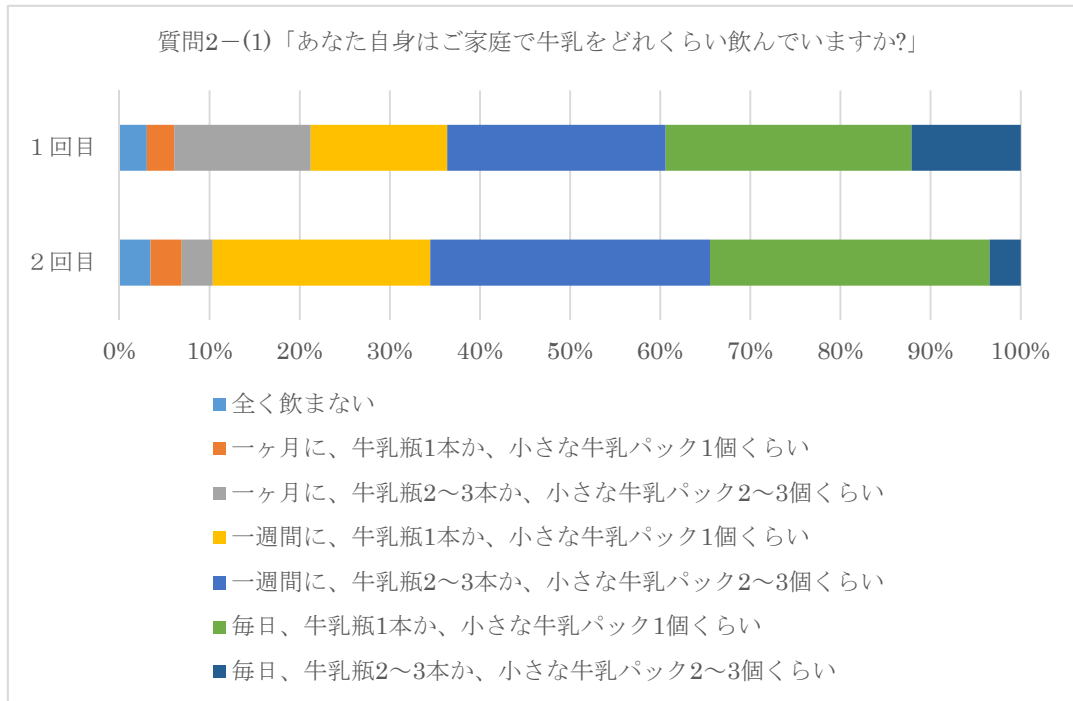
質問1-(3)「なぜ牛乳がきらいなのですか？」



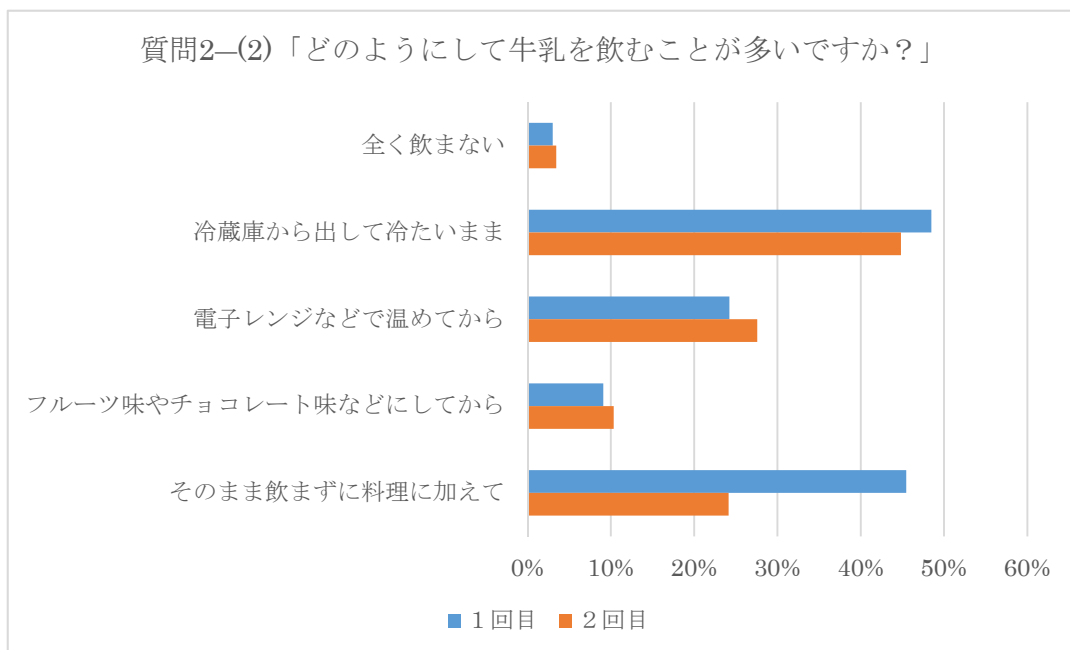
「ややきらい」と回答した理由について、上記グラフから読み取れることとして、「においがきらいだから」、「味がおいしくないから」という理由から牛乳が好きであるという人が多かった。また、1回目に限ることではあるが、「小さいときにあまり飲んでいなかったから」という回答の割合が高かった。

以上のような結果から、牧場体験などのプロジェクトを通して、牛乳に対して肯定的なイメージを持つ保護者の割合が高くなったことがわかる。その理由として、牧場体験を通して「命の大切さ」、「食への感謝」の気持ちが深められたからではないかと考える。特に、体験活動と食育の話によって気持ちが深まり、牛乳そのものへの否定的な面が少なくなり、肯定的なイメージに変わったのではないだろうか。

2) 「質問 2-(1),(2)」 についての分析と考察



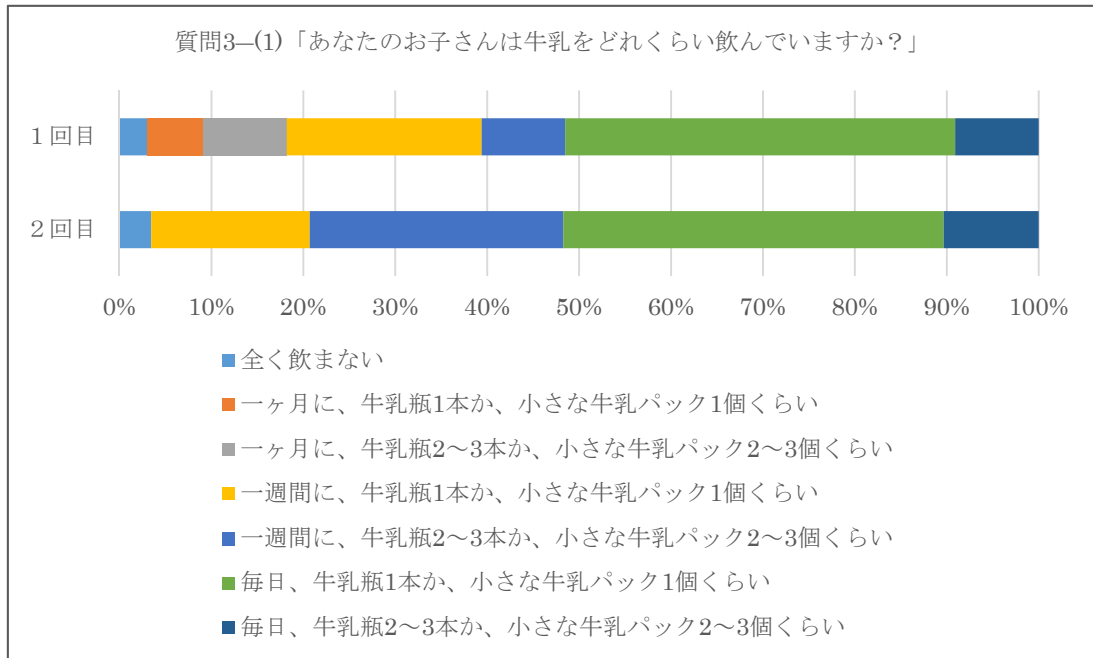
牛乳を「一週間に、牛乳瓶 1 本か、小さな牛乳パック 1 個くらい」以上であるという回答が 1 回目は 8 割弱の割合であったが、2 回目では約 9 割に上昇し、牛乳を飲む頻度が上がったと言える。「一ヶ月に、牛乳瓶 2〜3 本か、小さな牛乳パック 2〜3 個くらい」が 2 回目では割合が減少した。



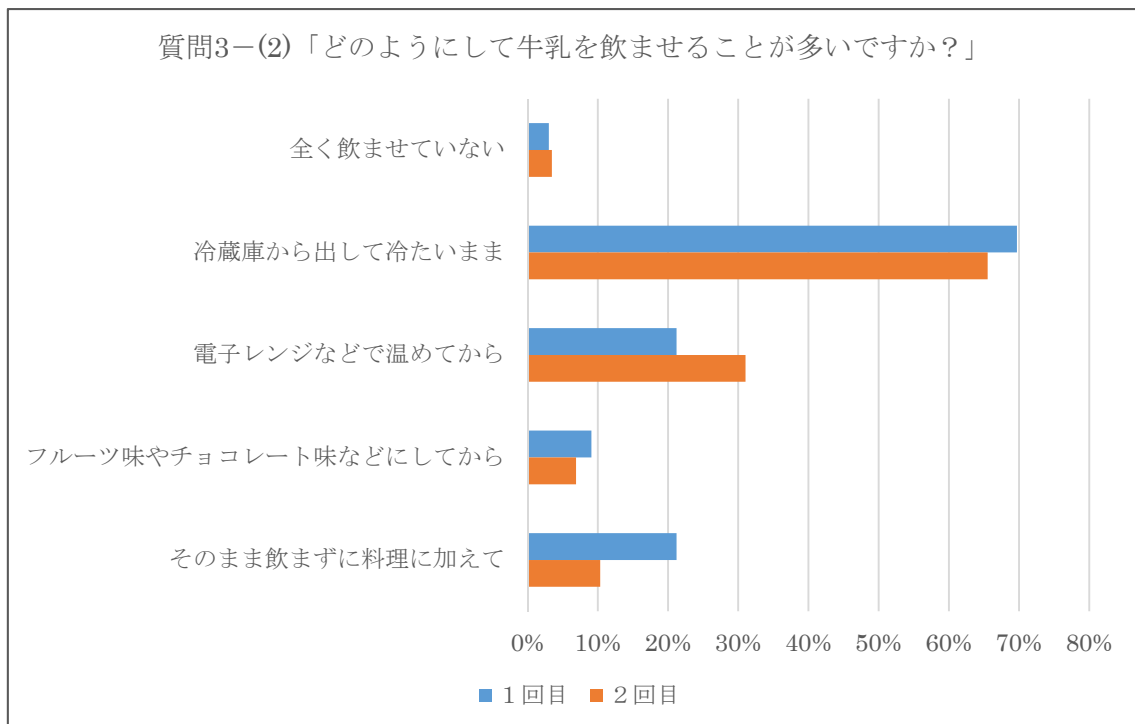
「冷蔵庫から出して冷たいまま」、「電子レンジなどで温めてから」という牛乳をそのまま飲むという飲み方の割合が多かった。全く飲まないという回答者の理由として、「牛乳よりもお茶やジュースを好んで飲んでいるため」というものがあった。「カフェオレにして飲む」という回答もあった。

以上のことから牛乳を「一週間に、牛乳瓶 1 本か、小さな牛乳パック 1 個くらい」以上であるという回答が約 9 割まで上昇したことは牛乳に対する肯定的なイメージが高くなったと言える。牧場体験などのプロジェクトが実際に牛乳を飲もうとする意識につながると言えるだろう。

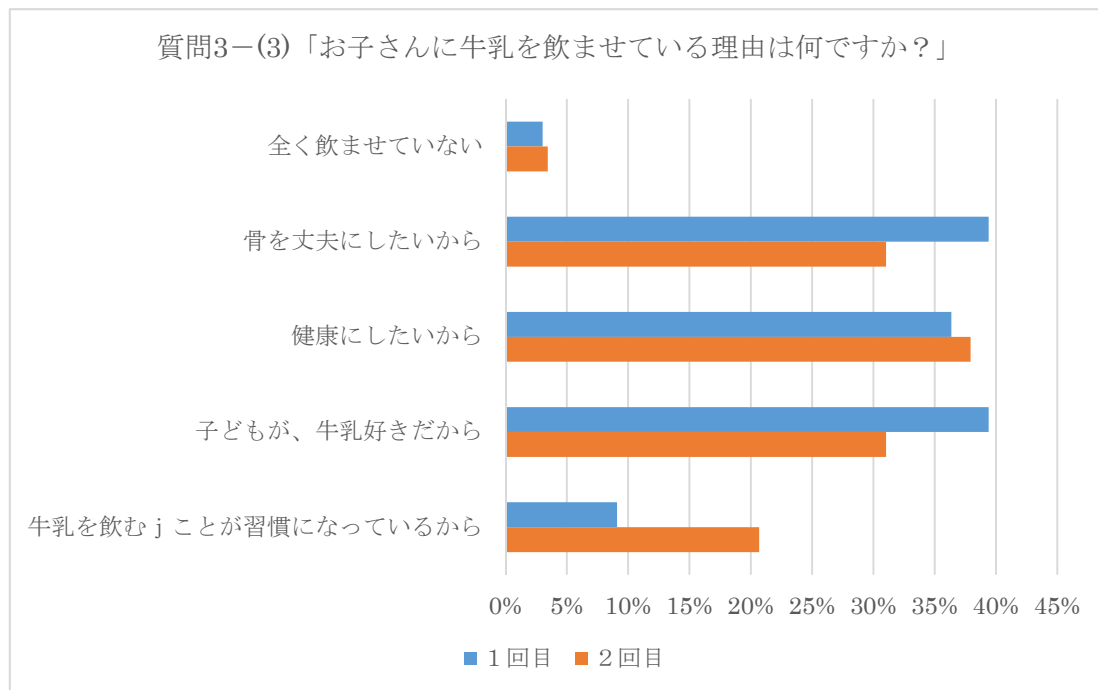
3) 「質問 3-1(1)~(3)」 についての分析と考察



牛乳を「一週間に、牛乳瓶 1 本か、小さな牛乳パック 1 個くらい」以上であるという回答が 1 回目は約 8 割の割合であったが、2 回目では 9 割超に上昇し、牛乳を飲む頻度が上がったと言える。さらに、「一週間に、牛乳瓶 2~3 本か、小さな牛乳パック 2~3 個くらい」という高い頻度でお子さんに牛乳を飲ませている保護者が大幅に増加した。



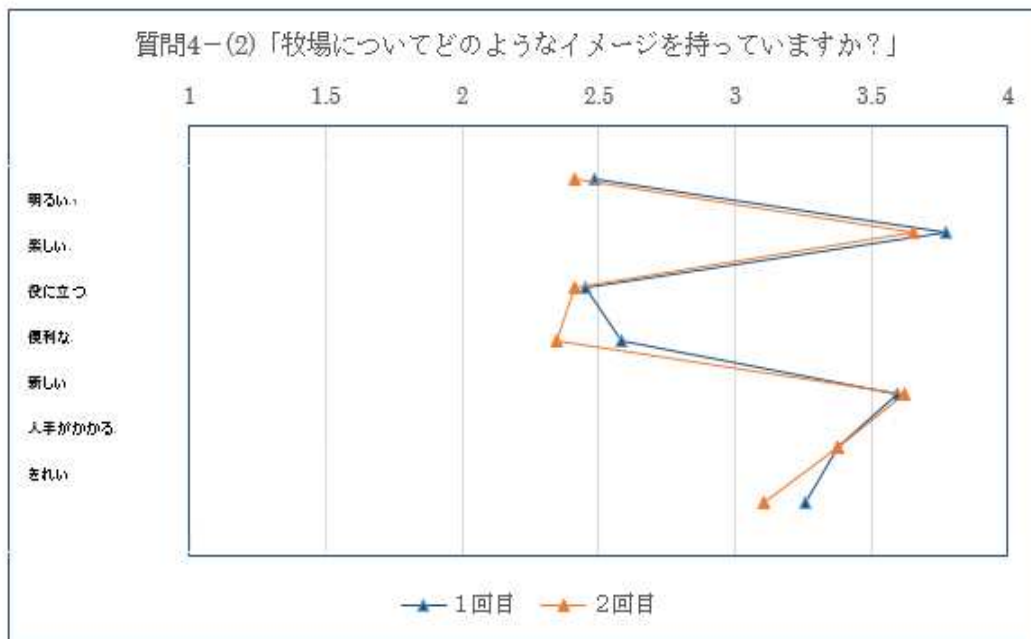
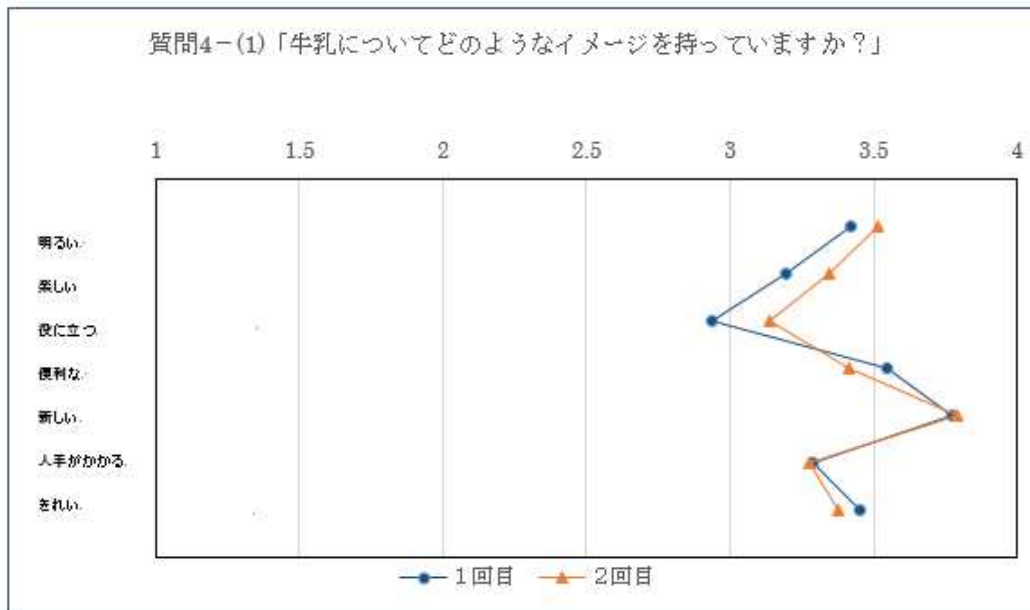
「冷蔵庫から出して冷たいまま」、「電子レンジなどで温めてから」という牛乳をそのまま飲むという飲み方の割合が多かった。



「骨を丈夫にしたいから」、「健康にしたいから」といった子どもの体にとっていいものであるという理由から牛乳を飲ませているという回答の割合が多かった。1回目に比べ2回目は「牛乳を飲むことが習慣になっているから」という理由の割合が上昇した。

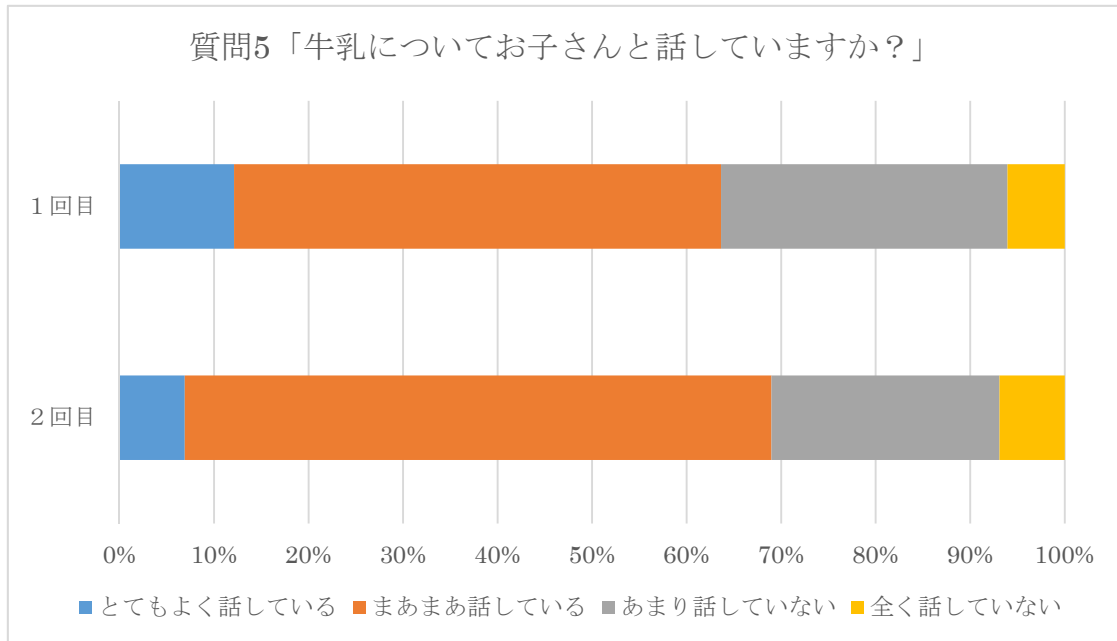
以上のことから、子どもに牛乳を飲ませる保護者の割合が増えたと言える。その理由として、前述にもあったが、保護者が牧場体験などのプロジェクトが実際に牛乳を飲もうとする意識を高めたと言える。さらに、子供自身の牛乳に対するイメージが向上したことも言えるだろう。「牛乳を飲むことが習慣になっているから」という理由が上昇したことは子ども自身の肯定的なイメージが行動の良い変容につながっているのではないだろうか。

4) 「質問 4-(1),(2)」 についての分析と考察



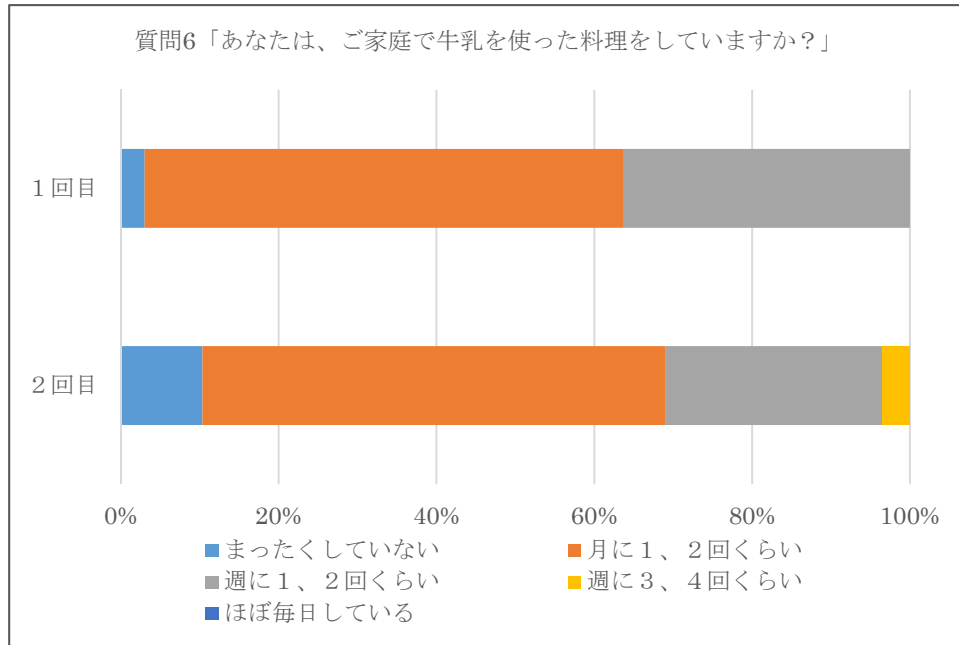
この設問は、牛乳と牧場に関する保護者のイメージをとらえるためのものである。結果としては、1回目のアンケートと2回目のアンケートで大きな違いはみられない。保護者のイメージとしては、牛乳と牧場について共に「新しい」というイメージがあり、特に牧場については「楽しい」というイメージが強い。

5) 「質問5」についての分析と考察



「まあまあ話している」という肯定的な意見が1回目と2回目を比較してみると、10%ほど割合が向上している。これは、保護者の牛乳に対する肯定的なイメージが向上しているから牛乳の話をするということがいえるだろう。牧場体験などのプロジェクトが牛、牛乳に対しての理解を深めさせたのではないだろうか。

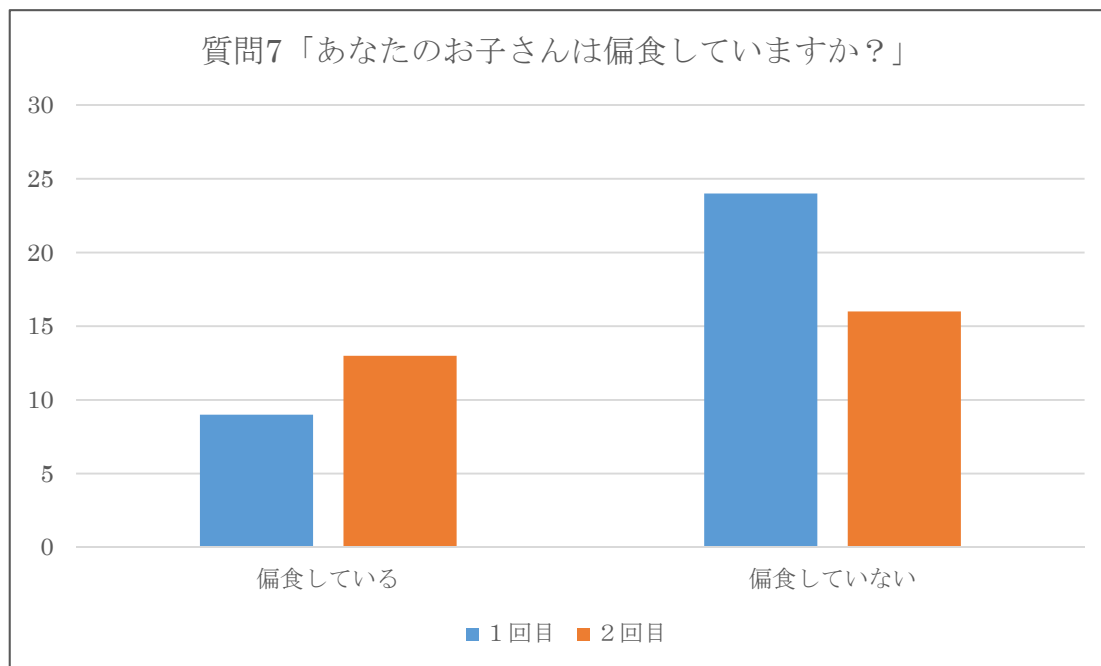
6) 「質問 6」 についての分析と考察



この設問では、2回の牧場体験と親子料理教室での牛乳・乳製品を使った調理体験が、家庭での牛乳を使った調理行動にどのような影響を与えるかを見るためのものである。結果としては、あまり大きな変容は見られなかった。わずかではあるが、2回目では、「まったくしていない」という家庭が10%弱増え（2人）、一方で「週に3、4回くらい」が3%程度（1名）増えていることがわかる。

このことから、今回の酪農体験プログラムにおいては、調理体験が1回のみであったことや、メニューが一品であったこと、また料理教室に参加した保護者が年長組だけであったことなどが、効果を限定的にしていると考えられる。したがって、今後の酪農教育カリキュラムを編成するときの改善の視点になるだろう。

7) 「質問 7」 についての分析と考察



この設問は、牧場体験と親子料理教室が子どもの偏食により効果を及ぼすのではないかという仮説から設定されたものである。なぜなら、この酪農体験プログラムが始まる前までは、多くの子どもが野菜嫌いであったり、牛乳が嫌い（3名）であったりしていたからである。結果としては、残念なことに2回目のアンケートでは、「偏食している」が若干増え、逆に「偏食していない」が増えている。

実際に今回の酪農体験プログラムが、子どもの偏食を直接増やしたとは考えにくい。特に、家庭からは、牛肉が食べられなくなったといった報告は受けていないからである。何らかの季節要因があるかもしれない。

前節できりん組の実践報告に見る限り、園での体験給食における牛乳嫌いは明らかに2回の牧場体験の後で解消しているのであるが、家庭での偏食全般についてのよい効果が表れるまでにはなっていないことがわかる。